

令和7年度「犬山市の子どもたち」

令和7年4月17日に「全国学力・学習状況調査」が行われました。
対象学年は、本年度の小学校6年生と中学校3年生です。調査対象は、小学校6年生の国語・算数・理科、中学校3年生の国語・数学・理科です。中学校理科は、IRT（Item Response Theory，項目反応理論）が導入されました。また、質問紙による学習状況や生活の様子についても調査が行われました。この調査から見えてきた、犬山の子どもたちの状況をお知らせします。各学校においては、それぞれ自校で調査結果を分析し、個人票と合わせて保護者にお知らせしています。

1 犬山市全体の正答率と全国平均との比較

学年	国語	算数	理科
小学校6年生	やや高い	高い	ずいぶん高い

学年	国語	数学	理科
中学校3年生	やや高い	ずいぶん高い	高い



2 学習指導要領の領域等

学年	国語	算数・数学	理科
小6年	・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・情報の扱い方に関する事項 ・我が国の言語文化に関する事項 ・話すこと・聞くこと ・書くこと・読むこと	・数と計算・図形 ・測定・変化と関係 ・データの活用	・「エネルギー」を柱とする領域 ・「粒子」を柱とする領域 ・「生命」を柱とする領域 ・「地球」を柱とする領域
中3年	・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・情報の扱い方に関する事項 ・我が国の言語文化に関する事項 ・話すこと・聞くこと ・書くこと・読むこと	・数と式・図形 ・関数・データの活用	・「エネルギー」を柱とする領域 ・「粒子」を柱とする領域 ・「生命」を柱とする領域 ・「地球」を柱とする領域

3 学習に関する傾向

小学校6年生

【国語】

- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域において全国平均を上回っています。
- 「書くこと」の領域において全国平均より下回っています。ただし、「読むこと」の領域で、目的に応じて資料から必要な情報を見付ける問題の正答率が約42%と低く、正しく読むことに課題が見られます。また、条件に合わせて自分の考えを記述する問題において、無解答が約15%ありました。書く問題に手を付けず、取り組んでいない様子が伺えます。

・複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、目的や意図に応じて、資料を正しく読み取る力を身に付けていく必要があります。

・話し合いの話題や発言を踏まえ、自分の考えを書く問題の無回答率が高いことから、話題の意図を的確に捉え、他者の発言と自分の考えを結び付けながら文章で表現する力を身に付けていく必要があります。

【算数】

○全ての領域で正答率が全国平均を上回る結果となっています。

- 「数と計算」の領域の分数の学習では、異なる分母の加法について記述する問題の正答率は約23%と、全国・愛知・犬山市において低い様子が見られました。

・既習の内容に結び付けながら、理由を言葉や数を用いて記述することができていません。知識・技能の活用だけでなく、思考し課題解決する力、思考を文章で表現する力が必要になるため、複合的な力を身に付けていく必要があります。

【理科】

○全ての領域で正答率が全国平均を上回る結果となっています。

- 「生命」の領域において、自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を基に新たに見いだした点を表現する問題の正答率が約30%と低く、自分の考えを記述することに課題が見られます。回答率は11%と、他の問題に比べてその割合が高く、記述式に苦手意識が見られます。

・自然の事物・現象と知識を関係付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深めるようにする必要があります。

・具体的な条件に着目できるように、既習の内容や生活の場面と関係付けて、問題を見いだすことができるようにする力を付けていく必要があります。

中学校3年生

【国語】

○「話すこと・聞くこと」以外の領域で全国平均を上回る結果となっています。

- すべての領域における記述式の問題の正答率が約20%から33%と低く、自分の考えが伝わる文章を書くことに課題が見られます。また、短文式の問題の無回答率が30%を超えており、問題を解こうとする意欲の低さが伺えます。

・自分の考えが伝わる文章になるように、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりするなど、根拠を明確にして書く力を付けていく必要があります。

【数学】

○すべての領域において全国平均を上回る結果となっています。特に、知識・技能を問う問題の正答率が高い結果となっています。

- 問題解決の方法を数学的に説明する問題の無回答率が高い傾向が見られます。

・事象を数学的に解釈し説明したり、筋道を立てて証明したりする力が求められています。小学校の算数と同様に、習得した知識・技能を活用し、論理的思考力や表現力を伸ばしていくことが大切になります。

【理科】

○「生命」の領域におけるすべての問題の正答率は全国平均を上回る結果となっています。他教科に比べて、記述問題の無回答率は低い様子が見られました。

- 知識・技能を問う問題に比べて、思考・判断・表現を問う問題の正答率が低い傾向にあります。

・科学的な根拠に基づいて事象の変化について分析・解釈する力を身に付けていく必要があります。事象を多面的、総合的に捉え、理科の見方・考え方を働かせて、習得した知識・技能を活用することが大切になります。

4 学習状況や生活の様子について（○は全国平均を上回り、●は全国平均を下回る項目です）

小学校6年生

○朝食を毎日食べている

○毎日、同じくらいの時刻に就寝している

○人が困っているときは、進んで助けている

●将来の夢や目標をもっている

●困ったときや不安なときに、大人にいつでも相談ができる

●普段の生活の中で、幸せな気持ちになる

●分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができている

●学習内容の分かった点、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている

中学校3年生

○朝食を毎日食べている

○人が困っているときは、進んで助けている

○新聞を読んでいる

○学級の仲間と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている

○友達や周りの人の考えを大切に、協力しながら課題解決に取り組んでいる

●毎日、同時刻に就寝・起床している

●困ったときや不安なときに、大人にいつでも相談ができる

●自分と違う意見について考えるのは楽しい

●分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができている

●学習内容の分かった点、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている

5 ICT機器を活用した学習状況について

○「ICT 機器で文章やプレゼンテーションを作成することができる」と回答した子どもは、小・中学校とも約80%見られました。

○「ICT 機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる」「画像や動画等によって学習内容がよく分かる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」と回答した小学校6年生は約85%見られました。

●「ICT 機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と捉えている小学校6年生は約70%と、全国に比べて低い割合でした。

6 質問紙調査から分かる、これから各学校で力を入れたいこと

- ・ 学校教育活動全体を通じて、自己肯定感や自己有用感を高めるような教師の働きかけの充実
- ・ 先生や大人に相談することへの抵抗感が減るような人間関係の構築
- ・ 学習に対する興味・関心や授業の理解度を高め、子どもが主体的に取り組む授業の充実
- ・ 課題解決に向けて筋道を立てて考える力、自分の考えを整理して表現する力を育む取組
- ・ 基本的な知識・技能の定着を図りつつ、仲間と協働・対話しながら課題解決する授業の充実

【犬山市における今後の取組】

- ☐ 自己肯定感や自己有用感を高めるような教師の働きかけを充実させ、豊かな心を育む取組を推進し、温かな人間関係の構築を図ります。
- ☐ 読解力向上プログラムに基づいて図書館活用を促進し、すすんで読書に親しむ子どもの育成を図ります。
- ☐ 学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わうことのできる子どもの育成を図ります。
- ☐ 学習において言葉にこだわって問題を読み解く力、相手の考えを読み取る力、自分の考えを表現する力など、読解力の育成を図ります。
- ☐ 一人一台のタブレット端末を活用した授業において、個別最適で協働的な学習を進めます。
- ☐ 自ら課題を発見し、自分の考えや仲間の考えをもとに、課題に対する最適解を作り出すなど、探究的な学びを推進し、子どもの主体性や論理的に思考する力、仲間と協働する力の育成を図ります。

〈 担当 〉 犬山市教育委員会 学校教育課

〈 電話 〉 0568 (44) 0350

〈 E-mail 〉 070200@city.inuyama.lg.jp